

第50回粘土科学討論会報告

第50回粘土科学討論会は、9月7日(水)、8日(木)、9日(土)に千葉科学大学マリーナキャンパス(千葉県銚子市)にて開催された。3日間とも概ね天候に恵まれ、スケジュールは順調に進んだ。

7日は13時から口頭発表が2会場に分かれて始まった。銚子市は、都内からのアクセスが悪いため、午後からの開始とした。受付は12時からスタートしたが、それ以前から数名の参加者が訪れて頂いた。発表方法は、事前に紹介したとおり液晶プロジェクタとOHPにて対応した。12時から発表用ファイルの受付を開始したが、ファイルの受付時に混み合う状況があり、また受け付けたファイルを会場設置コンピュータへ送付するのが発表開始時間の直前となる場合があり、ファイルの授受をよりスムーズに行なう工夫が必要であると感じられた。16時からは、ポスター討論が行なわれた。発表件数は、52件となった。ポスター会場は、スペースを広く確保するため、厚生棟(学食)とした。発表者の展示は、分かりやすく工夫が凝らされ、カラー化されている場合が多く、会場のあちこちで活発な討論がなされた。

8日は9時より2会場による口頭発表、11時から日本粘土学会総会、13時から会長講演、そして14時からシンポジウム、18時から懇親会が行なわれた。

総会はその成立確認を経て、神山会員が議長に選出された。諸学会活動等の報告事項、次年度予算等の審議事項等が順調に報告・審議され、承認された。また、奨励賞：笹井 亮会員、論文賞：平原英俊会員、中野政詩会員の表彰が行なわれた。

午後からは「自然からの贈り物—粘土とその科学—」と題して、渡邊 隆会長による会長講演が行なわれた。渡邊会長のこれまでの研究歴の紹介と大学人としての教育論が展開され、大変興味深い講演となった。

引き続き、「蛇紋石 環境と深く関わる層状ケイ酸塩」と題して、シンポジウムが行われた。このテーマは、蛇紋石が、近年大きな社会問題として注目される石綿の主要鉱物の一種であること、また地球温暖化対策技術として二酸化炭素の固定に有望であることなどから設定された。講演は、「蛇紋石の鉱物学的研究動向」(上原 誠一郎)、「蛇紋岩の特性と地すべり発生機構」(矢田部 龍一)、「断層のすべり特性と断層物質」(堤 昭人)、「蛇紋岩体の地化学環境を利用したCO₂処分研究」(二ノ宮 淳)、「蛇紋石の分別分析法と労働衛生および地球科学的意義」(神山 宣彦)の各会員によって行なわれ、山崎淳司、鬼形正伸、宮脇律郎の各会員を座長として、総合討論が行なわれた。社会問題の解決のための粘土研究の重要性を実感することができ、今後の展開が期待される討論であった。

シンポジウム終了後の懇親会では、102名に及ぶ参加者があり、大盛況を呈した。実行委員会代表挨拶、現会長挨拶に続いて、湊会員の音頭による乾杯と進められ

た。会の後半では、坂本尚史新会長と山田裕久常務委員長の挨拶があった。最後に次回の討論会は、北海道大学の米田哲朗会員のもとで開催されるとの内々の紹介もあった。

9日は前日までと同様に9時より2会場に分かれて口頭発表が行なわれ、正午にて無事終了した。

本討論会への総登録者数は、155名(会員96名、学生会員25名、共催・非会員34名)でした。また、講演は一般口頭発表56件、ポスター発表52件、シンポジウム講演5件で、幸いにもキャンセルはなく、すべて予定どおり行なうことができた。運営については細部に至るまで常務委員長、学会事務局の諸氏に丁寧なご指導を賜り、かつ、不手際をカバーして頂いた。また、シンポジウム並びに口頭発表のスケジュールをほぼ予定どおりの時間で進めて頂いた座長の皆様と様々な形でご協力を頂いた関係諸氏に厚く御礼申し上げます。

関連行事

A. 公開市民講座

第50回粘土科学討論会最終日にあたる9月9日(土)午後、「身近に使われている粘土」をテーマにした公開市民講座が開催された。この講座は、地元の誘致を受けて平成16年4月に開学した千葉科学大学で初めての「学会」を記念して行われたもので、日本粘土学会および千葉科学大学主催、銚子市および同市教育委員会後援のもとで開催された。講演内容は以下の通りであった。

- 1) 粘土とは何だろう
渡邊 隆(上越教育大学)
- 2) セラミックスと粘土
岡田 清(東京工業大学)
- 3) 化粧品と粘土
手塚昭雄((株)ボディクレイ)
- 4) 建設と粘土 土壌汚染とは?そして対策技術とは?
久保 博((株)大林組技術研究所)
- 5) 化学工業と粘土
古賀 慎(胎内粘土・鉱物資料館)

講演では、粘土の一般的な性質、陶磁器からファインセラミックスまでの焼き物の話題、化粧品に使われている粘土の説明と化粧品作りの実際、土壌汚染の問題、家庭にもあるプラスチックに使われている粘土、など、身近に存在する粘土に関する話題が提供された。簡単な化粧品作りのミニ体験やサンプル配布もあり、地元市民、大学関係者、学会会員合わせて70名ほどの参加者にも大変好評であった。

なお、この公開市民講座は、粘土科学討論会開催とともに、地元の新聞やケーブルテレビでも大きく取り上げられた。参加者の皆様、ご協力いただいた講師の諸先生、銚子市、大学をはじめとする関係各位に、紙面をお借りして篤く感謝申し上げます。

B. ミニ粘土展

討論会の期間中、受付脇のコーナーで「ミニ粘土展」が行われた。この「ミニ粘土展」の内容は、

展示コーナー：粘土細工用粘土、焼き物用粘土とその陶磁器、千葉県の粘土、100円ショップの粘土、化粧品および関連製品、など

実験コーナー：膨れる粘土、吸着粘土、ゾルーゲル変換、など

であり、代表的な粘土鉱物試料を展示するとともに、その応用例の一端が紹介された。「おみやげコーナー」も設けられ、ベントナイトの小片や雲母片が配布され、公開市民講座参加者などに大好評であった。開催に尽力された古賀 慎会員に感謝申し上げます。